

西山三鈷寺は岩倉の南灰谷の上にあり。宗旨は〔天台、真言、律、浄土〕四宗兼学にして、本尊仏眼曼陀羅は觀性法橋の筆なり。〔日本無二の曼陀羅にして、信ずるに靈応奇驗あり〕左右の壇上には釈迦弥陀の二仏を安置す、恵心僧都の作なり。堂内には智者大師像、善導大師像、善恵上人像、宇津宮蓮生法師像等を安置す。金色不動は智証大師の作なり、方丈本尊には宝冠弥陀仏を安置す。抱止弥陀如来は慈覺大師の作なり。〔むかし宇津宮頼綱入道蓮生法師、生身の弥陀仏を拜せんとてつねに願へり。あるとき本尊に向ふて念仏する事余念なし、おもほえずして目を閉けるに、菩薩の来迎を拜す。感信しきりにして涙を落す、漸あつて聖衆とともに飛帰らんとし給ひしかば、その余波をかなしみて、本師を抱き止め奉りしとおぼえてあたりをみるに、則つねに念ずる本尊なり。故に世の人抱止の如来と称す。貞永元年八月十五日夜なり。縁起一卷は西三条逍遙院の御筆なり。〕

当寺の開基は源算上人なり、觀性法橋慈鎮和尚も此山に住たまひ、中興は善恵上人なり。〔善恵廟塔は三町ばかり山下なり。碑の銘あり、世に西山上人といふ、浄土宗一派の開祖なり〕当山の絶頂を鬚嶽となづく、三峰ありて其形三鈷に似たるをもつて三鈷寺といふ。〔土人曰、此巔より二大仏七城見ゆるといふ、所謂二大仏は京奈良なり、七城は京、大阪、淀、郡山、高取、高槻、亀山等か〕